

令和 6 年度 第 3 回松江市スポーツ推進審議会 議事録

1 日 時 令和 7 年 2 月 6 日（木） 13 時 30 分～15 時 02 分

2 場 所 松江市役所 第一常任委員会室

3 出席者

(1) 委員（13 名）

安部委員、大塚委員、岸本委員、坂元委員、白水委員、中村委員、西村委員、
福田委員、松浦委員、三島委員、森山委員、山縣委員、湯町委員

(2) 上定市長

(3) 事務局

松江市文化スポーツ部 桑原部長

松江市文化スポーツ部スポーツ課 佐々木課長、山尾係長、三原、三代、江戸、下田

4 次 第

1 開会

2 あいさつ

3 議事

【報告事項】

(1) 第 3 期松江市スポーツ推進計画の策定に向けたヒアリングについて

【協議事項】

(1) 第 3 期松江市スポーツ推進計画（案）に対する意見募集について

(2) 第 3 期松江市スポーツ推進計画（案）について

(3) その他

4 事務連絡

5 閉会

5 議事等の要旨

(1) 議事

第 3 期松江市スポーツ推進計画（案）について、事務局から説明の後、委員による討論を行い、内容の一部修正について会長・副会長に一任した上で承認された。

(2) その他

特になし

6 会議経過 別紙のとおり

7 所管課 松江市文化スポーツ部スポーツ課（電話 0852-55-5296）

会議経過

(13 時 30 分 開会)

1 開会

○事務局（山尾係長）

只今より令和 6 年度第 3 回松江市スポーツ推進審議会を開催させていただきます。本日、議事に入るまで進行を努めさせていただきますスポーツ課の山尾でございます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日の審議会でございますが、会議は公開の会議とさせていただきます。報道機関をはじめ一般市民の方も傍聴可能となりますことをお知らせさせていただいておりますので、あらかじめご承知おきください。

本日は委員の皆様 13 名全員ご出席いただいております。なお、会議は概ね 90 分間程度の 15 時を終了予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。

2 あいさつ

○事務局（山尾係長）

はじめに松江市長上定昭仁よりごあいさつを申し上げます。

○上定市長

本日はお忙しい中、第 3 回松江市スポーツ推進審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、平素より本市のスポーツ行政に様々なご協力をいただいておりますことにあらためましてお礼を申し上げます。

昨年、本市では多くのスポーツイベントが開催されました。10 月には 8 年振りの開催となった地区対抗市民大運動会が開催され、選手集めなど苦労もあったと伺ってはおりますが、当日は選手の皆様が真剣に競技に取り組む姿とたくさんの笑顔があふれる素晴らしい大会となりました。また、12 月の国宝松江城マラソンは、コロナ禍をあけて初めて 4,000 人を超える 4,552 名の選手の皆さんに参加登録いただき、天候にも恵まれて大変盛り上がり、インターネットのサイト、RUNNET においても 87.3 点と過去最高の評価をいただくことができました。スポーツによる地域の盛り上がりが戻ってきているとともに、スポーツの素晴らしさをあらためて実感しているところです。

スポーツ推進審議会の皆様には、昨年の 8 月 29 日に第 3 期スポーツ推進計画の策定について諮問をさせていただき、これまで 2 回にわたって非常に活発な議論をいただいたというふうに伺っているところでございます。具体的には、こどもたちのためのスポーツ体験会の開催や、水の都松江の恵まれた環境を生かしたスポーツ振興、また、こどもだけでなく誰もが気軽にスポーツを楽しめるような環境の整備といったお話についてご提案をいただい

ておりまして、松江市として、委員の皆様からいただいたご意見を積極的に反映して、それを実行に移していきたいというふうに考えているところでございます。

そうした中で当然また財源も必要になって参ります。松江市は、いわゆるふるさと納税を受け付ける際に「スポーツの力を生かしたまちづくり」という項目も設けておりまして、スポーツ振興基金に積み立てております。こうしたふるさと納税などもうまく活用していきながら、予算を効率的、効果的に執行することで、松江市のスポーツ振興を図っていきたいというふうに考えているところでございます。

本日は第3期スポーツ推進計画について取りまとめをしていただくということでございます。皆様から引き続き忌憚のないご意見をいただきまして、松江のスポーツ振興に努めていきたいと考えておりますので、本日も何卒よろしくお願いいたします。

○事務局（山尾係長）

委員の皆様にお知らせいたします。大変申し訳ございませんが、市長は公務のため、ここで退席させていただきます。

○上定市長

大変失礼いたします。後で事務方からまた報告を受けますので是非ともよろしく願いいたします。

3 議事

○事務局（山尾係長）

それでは議事に入らせていただきます。議事進行を松浦会長にお願いいたします。

○松浦会長

それでは開会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。昨晩はもっと雪が降るかなと心配しながら寝たのですけれども、朝起きてみるとわずかに白くなっている程度でございまして、まずはほっといたしました。皆様方には第3回を迎えますこの審議会に全員の出席で議論をさせていただくということは大変ありがたいことだと思っています。

それから市長さんがわざわざお出かけになって、ごあいさつをいただいた。これは大きな意味があると思っています。第2回目が終わったときから、私なりに、予算はどうなるという話ばかりしておりましたが、今日は財源の話が出てきました。財源はきちんと考えているので安心して皆さんの意見をまとめて欲しいという気持ちは、私だけではなく、皆さん受け取られたんじゃないかと思っています。そういう意味でこの会議も、裏付けをいただく中で、いろいろな意見をまとめさせていただければと考えておるところでございますので、どうか皆さんの活発な意見交換をお願いいたしまして、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

それでは早速でございますけれども、議事を進めさせていただきます。
報告事項について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（佐々木課長）

スポーツ課の佐々木と申します。本日よろしくお願いいたします。

第3期松江市スポーツ推進計画の策定に向けたヒアリングについて、ご説明させていただきます。今年の1月の中旬に実施いたしまして、ヒアリング先は、資料に記載している4つの事業所から聞き取りをいたしました。

1つ目は東出雲のSPORTIVO ひがしいずもです。総合型スポーツクラブとして、大人からこどもまでを対象としたスポーツ教室などを実施していらっしゃる、東出雲体育館の指定管理を行っていただいている団体でございます。2つ目は有限会社Plus valueという松江市内のイベントの企画運営会社で、宍道湖サンセットマラソンや、えびす・だいこくマラソンなどの事業に携わっていらっしゃる会社にもお話を伺いました。3つ目は、フリーでスポーツのインストラクターをやっている木村崇男さん。エアロビクスとかそういったものを、スポーツジムや公民館、他の自治体での健康づくり事業とか、そういったような活動をしていらっしゃる方にお話を伺っております。そして最後4つ目が、未就学児の運動機会などについて確認するために、幼保園のぎとたまちこども園に行かせていただきました。

そういった中で伺った主なご意見をいくつか紹介させていただきます。

スポーツに対して、こどもはスポーツを楽しみたい傾向がある一方で、保護者さんは、競技志向、こどもに活躍して欲しいという思いを持っていらっしゃるというように、若干二極化が進んでいるのではないかなというようにお話をいただいております。

それから、屋根付きの屋外広場、こういったものがあると、最近の酷暑やいろいろな天候に左右されずに遊べる場所ができるのではないかなというお話をいただいております。

また、大会を運営していらっしゃる立場のご意見として、大規模な大会よりも小規模な大会で、松江の環境、ロケーションを重視した大会などをされるといいのではないかなというお話ですとか、最近はいろいろなアプリがあるので、一堂に会する大会だけではなくアプリを活用したスポーツイベント大会なども面白いのではないかなというご意見。

また、松江の強みである宍道湖、中海、大橋川、境水道、こういったところは本当に最高のロケーションですので、県外の皆さん、或いはもちろん松江の中の皆さんもですが、こういったロケーションを生かした大会づくりとして、トレイルランとかトライアスロンとかがあっても面白いのではないかなというお話をいただいたところです。

あとは参考ですが、コロナ禍を経て、マラソンは人が戻ってきているんですが、サイクリングなど道具にかなりお金がかかるようなスポーツは不景気の影響もあって人が戻り切っていないというお話もいただいたところです。

次に、いわゆるフィットネスクラブ、エアロビクスとかができるスタジオがあるようなス

ポーツクラブは、社交の場にもなっていてある程度年配の方がよく利用していらっしゃる。一方で、最近増えている24時間営業のスポーツジムでは、スタジオがなく、若い方がとにかくトレーニングを目的に体を鍛えるためにいらっしゃるような傾向があるというお話です。あと、そういった社交の場となりうるフィットネスクラブは、コロナ禍を終えても利用者がまだ回復していないということでした。

もっと体を動かしていただく人を増やすは、やはりスポーツの楽しさをしっかりと伝えることが大事だというふうにおっしゃっていらっしゃいまして、とりわけインストラクターの皆さんなどは、スタジオに来ていただければ、体を動かすことは楽しいんだよということを伝える力を自分たちも持っているので、こういったところに来てスポーツを体験してもらうきっかけづくりが非常に大きなポイントではないかということをおっしゃっていただきました。

最後に、最近の未就学児の傾向としては、転びやすい、或いは走り方が不安定、体幹が弱い、物を投げたりひねる動作が苦手な子がいるというふうに伺いました。

なぜかという、例えば最近の水道の蛇口などは上下の動作だけで済んでひねる動きをしない。あるいは、歩くところもバリアフリーであり高低差がないことが多く、以前と違って日常生活の中での弱さが出てきているのではないかということでした。

その上で、そういった動作をうまく体験できるように、園の生活や遊びの中では、こどもたちにしっかりと体を動かして、そういった動きをさせているというお話を伺っております。

また、かけっこかボール遊びとかダンス、あとまつえっこ体操も含めて、日常生活の中で遊ぶ時間を設けて活動している。外部講師によるスポーツ体験なんかもやっていたらいいなということをおっしゃっていました。

また、これは民間の施設の話にはなりますけれども、例えば4・5歳児ぐらいになりますと、保護者が希望される場合は、ほかの子が昼寝をしている時間にスイミング教室に送迎バスで通うとか、そういったような形でこどもに運動する機会を与えていらっしゃるようなところもあるそうです。保護者の金銭的な部分とか考え方とか、そういったところでこどもたちが体験できるスポーツが変わっているというようなお話も伺いました。

こどもたちのスポーツ機会については、審議会でもいろいろとご意見をいただいたところですが、未就学児については比較的体を動かすというのは、保育施設などを含めてしっかりできているのかなというところは感じました。ただ、競技ということについてはまだまだこれからなのかなというのがお話を伺った印象でございました。

ヒアリングの報告は以上です。

○松浦会長

ありがとうございました。いろいろ多方面にわたっての報告でございましたけれども、この報告についてご意見ご質問はございますか。

(発言する者なし)

○松浦会長

無ければ、この件につきましては、皆さん方にご理解をいただいたということで、つつ、次に進めさせていただきます。

○松浦会長

そうしますと協議事項に入らせていただきます。協議事項について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（佐々木課長）

資料2「第3期松江市スポーツ推進計画（案）に対する意見募集について」をご覧くださいければと思います。

第2回の審議会以降のところで、ご意見いただいたものを加えて若干修正させていただいて、その案をもって12月23日から1月22日までパブリックコメントを実施いたしました。9名の方から11件の意見をいただいたところでございます。ご意見を委員の皆様にご紹介させていただくほかに、ホームページで意見に対する考え方というものも公表させていただくことになりますので、こちらも案の方もつけてお諮りをさせていただこうと思います。

まず、1番でございますが、スポーツを実施する人を増やすために市内のスポーツ施設の利用料金を期間限定で割引などすべきだというご意見をいただいております。ただ、市の考え方としましては、スポーツ施設の利用料金自体は受益者負担の観点から設定をしているというところもございますので、割引でどれだけの効果があるのかそういったところを費用対効果も見ながら今後検討して参りますということで回答したいと思っております。

続きまして2番ですけれども、スポーツによるひとづくりの成果指標の中に健康寿命を挙げておりますが、指標として適切ではないように思うというご意見をいただいております。といいますのも、健康寿命というのは、体を動かすことだけではなく、ストレスや暑さ寒さなどの自然環境の変化、日常の食生活などの影響も大きく加わるので、その辺はどうだろうかということでのご指摘でした。おっしゃるように、健康寿命というのは確かに運動だけで計れるものではないと思っておりますが、そうは言いながらも、運動が健康にもたらす効果として、筋量とか筋肉の維持、或いは生活習慣病の予防なども挙げられまして、厚生労働省が行っているスマートライフプロジェクトという中でも、4つの柱の一つとして身体活動が非常に重要ですよと掲げられておりますので、スポーツ自体は健康寿命に影響を与える大きな要因であるということで、全てではないんですけれども、大きな指標の一つとして

挙げさせていただきたいということで回答するものです。

続いて3番ですけれども、こちらはゴールデンエイジのいわゆる9歳から12歳のお子さんたちへのスポーツの指導に力を入れてほしいというご意見でした。能力のあるこどもが島根を離れてしまうということもありますので、こどもたちがスポーツがをやりたいという環境を作るようにしてほしい。あともう一つは、指導者のボランティア精神に依存するような取組はもう限界がきているので改善を図ったかどうかというご意見でございます。こちらにつきましては、誰もがスポーツに親しみを持てる環境整備ということは考えているところでございまして、今回の推進計画の実施計画の中でも、こどものためのスポーツ見本市の継続開催なども考えておりますので、引き続きこどもたちが幼いころからスポーツに親しむことのできる機会の提供に取り組むことを取り組んでいきたいと考えております。また指導者につきましては、こどもたちがきちんとしたスポーツ活動ができるような環境整備に取り組んでいくというところで、ボランティア依存からの脱却というところは今後の検討課題かなというふうに考えているところです。

続きまして4番になります。こちらは中学校の部活動の地域移行に関する不安や課題とか、そういったものを挙げていただいております、例えば地域に移行することによって、練習場所或いは指導者の確保をどのようにするのかというところ。あと活動の場所に行くまでの送迎をどういうふうにするのかというようなお話などがあります。また指導者につきましても、補償ですとかそれに見合うだけの報酬などは、どのようにしていけばいいのかというところ。あと大会運営や指導者の資質に関する問い合わせなど、非常にたくさんの観点のご意見いただいたものでございます。今現在、部活動の地域移行につきましては、教育委員会で、中学校の部活動のあり方に関する検討委員会というのを立ち上げておりまして、なかなか一概に答えが出るものではないので、できるところからやっていきたいと思います。というような方向にはなっておりますけれども、そういった中で引き続き検討していくというふうに考えております。

続きまして5番ですけれども、こちらはスポーツを行うためにも医学的な学びが必要で、そのようなイベントと開催してほしいというお話でございます。こちらは実施計画にも今回書かせていただいておりますけれども、医学的な知見に基づきながら、皆さんに体を動かしていただけるような取組を進めていきたいと考えております。

次が6番と7番です。こちらは地域の体育協会や、地域の体育行事に関するところです。地域の体育行事については、参加者が減少傾向で、地域体協の役員が高齢化している中で、他の地区がどんな取組をしているのか、意見交換などの機会を作って欲しいというご意見。また指導者の高齢化などが顕著で、地域で運動にを担っていただく若者、組織の若返りを検討できないかというようなお話でございます。こちらにつきましても、今、地域体育協会の皆様方とも意見交換などをしておりますので、そういった中で解決に向けた取組を進めて参りたいと思っております。

8番は、市民体育祭の関係でございます。今、松江市の市民体育祭というのは、ソフトボ

ール、バレーボールと卓球を毎年やっておりまして、それ以外にはニュースポーツと地区対抗大運動会を隔年で開催しておりますけれども、参加地区及び参加者がどんどん減少している中で、こういったやり方がいいのかということをもう一度検討して欲しいということでお話をいただいているところです。こちらにつきましては、先般なんですけれども各地域体育協会に大運動会に関するアンケートもとらせていただいておりますので、今度、地域体育協会連合会の理事会もごございますので、そういった中で、在り方を含めて検討していくということで考えているところです。

続きまして9番でございますけれども、こちらには、スポーツというのが、ボランティアではなく、ビジネスとしてのものになりつつあるので、資格取得の補助金ですとか、イベント開催のための補助金などを要望するということでございます。ただ、ビジネスに関して行政が補助金を出すということにはならないとは思っておりますけれども、指導者の育成ですとか、或いはいろんな大会とかの在り方というのは大切なことだと思っておりますので、そういったことについては行政としても検討して参りたいというふうに考えております。

続いて10番は施設の老朽化に対する修繕解消して欲しいという要望でした。こちらについては市の全体の方針の中で、いろいろ検討していくということにしております。

最後の11番ですけれども、こちらは地元で急にスポーツをしたいと思ったときに、学校や体育館が利用できないことが多くて、気軽に利用できるというご意見でございます。これについては、スポーツ施設の情報をきちんと分かりやすく提供することによって、簡単に調べられるような形での情報提供の取組などは進めていこうと考えております。

パブリックコメントに関しては、以上となっております。

続きまして、推進計画の案についてご説明させていただきます。資料3をご覧ください。第2回の審議会で皆様方からいただいたご意見のところを修正してパブリックコメントに諮らせていただきましたので、そういった部分も含めて、ご説明させていただければと思っております。

まず、スポーツ推進計画の策定にあたっての趣旨のところについては特に大きく変えたところはございません。続いて、3ページからの松江市の現状と課題につきましても、こちらの方も大きく変えたところはございません。ただ3ページの「【基本方針1】ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」の「②卒業後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う中学生の割合」について、2024年度の数字がまだ出ておりませんので、数字がまた出たところで入れさせていただこうと思っております。その他につきましても、こちらの項目については変えたところはございません。

続いて、8ページの計画の基本的な考え方というですが、こちら大きく変更はしておりませんけれども、こちらはポイントとなりますので改めてお伝えをさせていただこうと思っております。

基本理念といたしましては、「スポーツでつくる『夢を実現できるまち 誇れるまち 松江』～スポーツが松江の存在を高める～」ということにさせていただいて、松江市の総合計画と見合った形にさせていただきます。そして9ページの重点施策でございますけれども、こちらは「島根かみあり国スポ・全スポに向けた取組の推進」としております。その中の重要成果指標といたしまして、「1年間にスポーツにかかわった市民の割合」が目標値100%に近づくことを目指す。また、その中で「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は70%、「島根かみあり国スポ・全スポにかかわった市民の割合」は100%に近づくことを目指すということにしております。国スポ・全スポにどういうふうに関わっていくかというところなんですけれども、国スポ・全スポが島根県で開催されるという正式な決定が来年度の予定でございますので、来年度、松江市の実行委員会を立ち上げることにしておりますので、そういった中で具体の目標を出して取組を推進計画の中にも盛り込んでいきたいと考えております。

続きまして12ページをご覧ください。スポーツによる「ひとづくり」でございます。こちらは大きく変えたところはありません。基本施策として、「ライフステージや個性・特性に応じたスポーツの推進」、「幅広い志向に応じたスポーツの推進」というところを入れさせていただきます。

続きまして13ページのスポーツによる「つながりづくり」は、一つ成果指標を変更させていただいております。「活発な地域交流に繋がる市民体育祭の開催」というところでございます。先ほどパブリックコメントの中でもいただいた意見にもございましたけれども、現状には地区対抗大運動会を含めた今現在の市民体育祭の状況を載せておりまして、今後来年度にわたって地域体育協会の皆さんと大運動会、体育祭の在り方を検討して参りますので、「令和8年度までに新たな在り方を検討し、今後設定」としているところでございます。

続きまして14ページ、スポーツによる「なかまづくり」につきましては、大きな変更はございません。国内都市、海外都市とのそれぞれの交流の推進を図っていくものとしております。

続きまして15ページ、スポーツによる「しごとづくり」でございます。基本施策の「①スポーツと観光の連携の推進」のところで、前回の第2回の審議会でインバウンドをもう少ししっかりと外に出したほうがいいのではないかというご指摘などもいただいておりますので、もともとこちらの項目取組方針は「(1)スポーツ大会の県外参加者と観光を結び付ける取り組み」のみにしていたものを、「(2)松江ならではの環境を生かしたスポーツと観光を結び付ける取り組み」と「(3)スポーツを活用したインバウンド誘致」を新たに目に見えるような形に出させていただきました。それから成果指標の一番下に「③スポーツコミッションによる事業成果」というのがございます。スポーツコミッションを今年3月末のところで設立をする予定しておりますので、設立後に目標値を入れさせていただければと思っているところです。

続きまして16ページ、スポーツの「どだいづくり」でございます。こちらの方も大きく

変わったところはありませんけれども、成果指標の「②スポーツボランティア登録者数」については、今年度末に設立するスポーツコミッションの中でボランティアの登録制度というものを来年度のところで設けようと思っておりますので、目標値はその後に設定したいと考えているところでございます。

続いて、資料4の実施計画もご覧いただければと思います。第2回以降、庁内の関係課や皆様方からのご意見も含めて新たに取組として加えたものがございますので、ご説明をさせていただきます。

まず、スポーツによる「ひとづくり」の部分ですけれども、一番右の具体的取組の中の一
番上の項目でございますが、「平日夜間に行うおとな向けスポーツ教室」「子育て世代の親子
へのスポーツ体験の提供」、こういったものを新たに何かできるといいなというところで具
体的な取組に加えさせていただいております。

続いて、その下の項目になりますけれども、「松江ならではのスポーツの推進」というこ
とで水辺のジョギングですとかレガッタ、あと「スポーツの巡回指導」ということでラジオ
体操とかまつえっこ体操などというところを新たに入れさせていただいております。

それから、その2つ下の「健康づくりやレクリエーションのためのスポーツの推進」の中
には、「医学的知見に基づいたスポーツの推進」というものを、皆様のご意見いただきなが
ら入れさせていただいているところです。

続いて、2ページ一番右の上の「各地域におけるスポーツ活動の活性化」ですけれども、
「公民館など地域におけるスポーツ事業の推進」、こちらはもともと入れさせていただいて
おりましたけども、「情報発信による参加者をふやす取組など」といった項目も追記してい
るところでございます。

その下のところになりますけれども、スポーツによる「なかまづくり」の「国内の姉妹都
市とのスポーツ交流の推進」という中では、「珠洲市、大口町とのスポーツ交流」を新たに
加えさせていただいております。さらにその下にも「海外とのスポーツ交流」も新たに具
体的な取組として入れさせていただいているところです。

続いて、スポーツによる「しごとづくり」については、「スポーツと観光の連携の推進」
の中に「観光DMOとの連携」というものをに入れております。こちらは今年度に観光協会が
新たに観光DMOという組織を作られますので、そこと連携しながら観光の誘致にも向か
っていきたいと考えております。

さらに2つ下の「スポーツを活用したインバウンド誘致」ですけれども、「スポーツツー
リズムをテーマとした外国人観光誘客の促進（マラソン、サイクリングなど）」というもの
も新たに入れさせていただいた項目となっております。来年度のところで外国の方を対象
にした何かしらの活動ができればというふうに考えているところです。

最後の3ページのスポーツの「どだいづくり」には、一番下から2つ目のところで、「一
人や二人、親子で取り組めるスポーツ環境の整備」、小さなバスケットコート
の整備などを

含めてということで新たに加えさせていただいております。

最後、一番下の「利用者ニーズに沿ったスポーツ施設情報の提供」という項目も新たに入れさせていただいたところとなっております。

ちょっと早口での説明になってしまいましたけれども、こういったところが新たに入れさせていただいた要素となっております。その中で、今申し上げた具体的取組については、まだ来年度の予算に向けた編成中というところではっきりとはなかなか申し上げられませんが、以前からお話させていただいているようにこどものためのスポーツ見本市の継続、こういったところについてはしっかりと取り組んでいきたいと思っております。また、先般からいろいろとお話をいただいております、こどものためのスポーツ体験の提供という中で、スポーツの巡回指導などといったところにつきましては、どなたがプレーヤーになって動いていただけるのか、或いは受け入れ先はどういったところがいいのか、そういったところも含めて色々な調整が必要になってくるかと思っておりますので、今後いろいろ調整をしながら、事業として進めていければと思っております。

先ほど市長から話がありましたけれども、スポーツ振興基金を財源として活動ができるということが我々も分かりましたので、そういったところを活用しながら、もちろん我々の方からいろんな事業を提案させていただくのですけれども、皆様方からも具体的なお話をいただきながら、事業を進めていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に資料 5 でございますけれども、こちらは先ほどのスポーツ推進計画を概要版として 1 枚にまとめたものでございます。計画の位置付けから重要成果指標、あとイメージ図をまとめて、簡単に説明できるようにしたものでございます。こちらにつきましてもご確認いただければと思っております。

説明は以上でございます。

○松浦会長

ありがとうございました。過去のこの委員会の結果が、一つのまとめとして、おおよそ出てきたということだと思っておるところでございます。このあと皆さんのご意見をいただいて、修正できるものは修正し、或いは課題として残しておくものなど、いろんな形のものがあるかと思いますが、ご提案なりご質問をご遠慮なく発言をお願いします。

三島さん、どうぞ。

○三島委員

ちょっと一つだけ、パブリックコメントの中で、10 番目のスポーツによる「どだいづくり」の施設整備についてなんですけれど、聞いた話なんですけれど、市内の某中学校の体育館にある手洗い場の水道管が何年か前に破裂して、それがそのままの状態だそうでした、暑い時期にも子どもさんたちが使えないっていう話を聞いています。多分中学校からも要望

は出ていると思うんですけど、今ここに「施設の状態や利用状況等を踏まえ、計画的に」って書いてありますけれど、やっぱり予算的な問題ですぐには修理できないんでしょうか。

○松浦会長

課長どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

まず縦割りの言い方で恐縮なんですけど、学校施設なのでスポーツ課ではなく教育委員会の所管になりますが、具体的な学校名が分かれば、我々から教育委員会に確認できますので、また言っていただければと思います。今おっしゃったとおり予算も関係しますので、優先具合、本当にこれ危ないぞとか人命に関わるとか、いろんな優先度具合も含めたものを整理しながら計画的にまとめているということになっております。

ちなみに、スポーツ課が所管している施設については、今年度、大きな施設の長寿命化計画を作っている最中でして、松江市全体で約 50 のスポーツ施設を持っておりますので、来年度に向けてそういったものも含めた長寿命化計画っていうのを作っていく考えでおります。

○三島委員

ありがとうございます。

○松浦会長

他には。はいどうぞ、中村さん。

○中村委員

中村でございます。非常によくまとまっていて、分かりやすい資料だなと思って拝見しております。

先ほどのパブリックコメントのことも含めてなんですけれども、まずこどものスポーツに触れ合う機会の創出ということに関しまして、保育園とかで空き時間でお稽古に通っているという話がありましたけれども、島根県は共稼ぎ世帯が非常に多いので、おのずと保育園とか幼保園、幼稚園とかに預けていることが多いと思いますので、そうすると家庭の環境によってスポーツに触れる機会が少ないこどももいたり、ばらつきもおそらくあるんじゃないかなと。そういう意味で、こどものためのスポーツ見本市は良い取組なので、一つの松江市の目玉として、今後も継続していったらどうかということが 1 点目です。

それからもう一つ、これはパブリックコメントの中であった、市民体育祭とか地域体協のあり方というところなんですけれども、もしかしたら自治会もそうかもしれませんし、PTAや保護者会なんかも昨今いろんなことが論じられておりますけれども、そういったコミ

ユニティや繋がりというふうなところが、地域の中においてもひょっとしたらちょっと希薄化されているんじゃないかなというふうなことを思います。運動会をするにしても、運営をする人も参加する人も年を取っていて、何のためにやっているのか、目的が達成されていない、というふうなことだったんですけれども、例えば補助金を充ててイベント業者が何かに運営を一切お願いして、あとは体一つで参加してもらえばいいよって言ったところで、それで参加するのかなと言ったら、それも違うんじゃないかなというふうに思っていますので、スポーツのこと、地域体協の人に限らず、そういった周辺の、何か繋がりのあるような組織との連携というふうなことを通じて取り組んでいかないと良くならないんじゃないかなと思います。

最後に補助金の話なんですけれども、ここに書くべきことではないかもしれませんが、先ほど松江市も50の体育施設があるということをおっしゃられましたけれども、基金を取り崩すということもあるかもしれませんけれども、市の限られた財源の中でずっと先細っていくわけにいかないと思いますので、私は一步踏み込んで、体育施設のネーミングライツ、そういったこともぜひご検討されるといいんじゃないかなと思いました。

鳥取県は命名権を県内外の企業に与えることによって、それを原資にして、老朽化の修繕であったり備品を買い替えたり、そういったこともものすごく取り組んでいますので、次のステージとして、そういったことにも踏み込んでいかないといけないのではと思います。

○松浦会長

はい。貴重なご意見ありがとうございます。課長さんどうぞ。

○事務局（佐々木課長）

ありがとうございます。確かにこどもの関係は環境にばらつきがある中で、スポーツ見本市については継続させていただきたいと思っております。あと地域体協の関係のお話ですが、おっしゃるとおりでして、もう地域体協だけでなくコミュニティとしての自治会とか、そういったところの課題等も共通しているんだろうなと思っております。そういった中で、これは今後発表させていただくんですけれども、昨年10月に行われた大運動会のアンケートとらせていただいたんですが、大変だったって言われるのかなと思っていたらそうじゃなくって、結構やって良かったっていう地区がすごく多くって、地域の団結になって良かったよって言うだけの方が7割以上いたんです。ということはやっぱり、言い方は悪いですけど、まだまだ捨てたものじゃないといえますか、地域の繋がりづくりにこういったものが大事だよっていうことを皆さんに理解していただいているのかなと思ったところです。大運動会は8年ぶりでしたので、開催できてない間に皆さんのノウハウもなくなって大変だということはあるんですけれども、やっぱりこれから、今ある形の中でもちょっとずつスポーツ活動を進めていながら地域の繋がりを作っていけるということがすごく大事な役割なのかなと思っております。先ほどおっしゃっていただいたように周

辺の繋がりのある組織とかも含めていろんなところを巻き込みながら、皆さんが今までとはちょっと形が違うかもしれませんが、スポーツを通じて地域の繋がりが作っていきけるようなやり方っていうのは考えていきたいと思います。また審議会の中でも、我々も事例発表とかさせていただきながら、皆さんからもご意見をいただけるとありがたいかなというふうに思っております。

あとネーミングライツですけれども、おっしゃるとおりでございます、今、我々もいろいろと調べているところでありますので、できるだけ早くそういった準備というのはしていこうと思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

○松浦会長

何か答えを言われてしまったようなこともあります、せっかく中村さんの話から、ネーミングライツの話が一つ、スポーツ見本市の話が一つ、それから地域体協・リーダーづくり・大運動会を振り返って、という3つぐらいに分類できていると思っています。

まずネーミングライツのことで、私は具体的な数字を憶測でしか分かりませんが、金額が余りにも安い、もしくは関連のある業種じゃなくて全然違う業種の名前が付いて施設の目的や様子が分からないということなどいろいろと議論がある部分があります。ネーミングライツについて、皆さんご意見はいかがですか。

(挙手する者なし)

○松浦会長

今やっている施設はどこがあるのですか。

○事務局（佐々木課長）

市内では、スポーツ施設は事例がなく、今回初めてプラバホールが「さんびる文化センター」という名前です。さっきおっしゃったように、鳥取県は結構やっています。鳥取県内ではほとんどなくて、直近では出雲市が「だんだんトマトアリーナ」という名前になっております。今おっしゃっていただいたように、もちろん施設の目的と全然違うような企業さん、ちょっと怪しげな業者さんでもいけないという規制と同時に、あとは費用対効果に見合った金額をいただけるっていうところも含めて、他自治体の事例なんかも含めて、今いろいろと研究しているところです。

○松浦会長

研究中のようでございますので、我々の意見としては、金額をなるべく高く設定いただければ、より有効に使えるかなというぐらいなところでいかがでございますか。

はい、中村さんどうぞ。

○中村委員

仕事柄、全国各地に行かせていただくんですが、例えば京都では公衆トイレもネーミングライツの対象になっていたり、名古屋では歩道橋にもネーミングライツがついていて、それがどう活用されているのかは私も勉強しないと分からないんですけども、結構先進事例もあるんじゃないかなと思います。例えば、鳥取県のとりぎん文化会館とか、高いところだと福岡の PayPay ドームや横浜の日産スタジアム。金額で多いのは 100 万から 500 万ぐらいの間じゃないかなと思います。値段だけじゃなくて、公序良俗とかその施設の目的に合致するようなものを審査していただければ、有効な財源の一助になるんじゃないかなと思います。

○松浦会長

ありがとうございました。ふるさと納税との関連もありまして、いろいろややこしい問題をクリアしなきゃいけないところがたくさんあると思いますが、この会としては、やるならできるだけ高く、施設に見合った金額を設定しなさい、それからネーミングについても施設ときちっと合ったところでやって欲しいというような意見を付けていただけたらいかがですか。よろしいですか。

(委員一同、異議なし)

○松浦会長

はい。それでは、ネーミングライツについては終わりました。スポーツ見本市については皆さんいかがですか。湯町さんが発起人みたいな格好でやってらっしゃいますが。

○湯町委員

松江体協の湯町です。今年度創立 100 周年を迎えたということで、いろいろ事業を企画する中で、こどものスポーツをする機会とかいうのがだんだん少なくなっているんじゃないかと。部活動の地域移行ということも含めてなんですけども、お金のあるところとか、保護者の時間的余裕のあるところしかスポーツができないということで、そういったこともたちにもスポーツをする機会を増やしていこうということで話し合ってためたものです。もっと進んで、こどものスポーツを盛んにすればそれを支える大人たちの関心も当然高まりますので、そこにも良い影響が出る。こどもがやれば、その子が大きくなったときに大人のスポーツも盛んになる。その子たちが、進学なんかで出て行ったりしても 30 過ぎぐらいになると地域に戻ってきて地域でスポーツをする。地域振興、まちづくりにも繋がる。そういったことのスタートがこどもじゃないかというふうなことを体育協会の中で話をして、創立 100 周年ということで見本市を去年の 6 月に開催したんですけども、どうも毎年やり

なさいということでございまして。昨年は1600名ぐらいの方に参加をいただきまして、保護者の方、参加される皆さん、普段やらないようなスポーツもいろいろやってみられて、会長さんが言われる、食わず嫌い、スポーツの偏食、何か一つのスポーツだけに関わるんじゃないといういろんなことやって、こどもたちの総合的なバランスのとれた体の発達をしていくということで始めたものでございまして、今回この計画の中に入れていただいて非常に喜んでいるところです。一年一年進化するように、今後も実施していけたらなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○松浦会長

ありがとうございました。他に何かございますか。スポーツ見本市の話、これも皆さんやっていいということでいかがですか。概ねそういう方向でよろしいですか。何か異論があればどうぞ。

(発言する者なし)

○松浦会長

今市長さんも予算的な裏付けをとということで、大変期待していらっしゃるようでございますので、それではスポーツ見本市のことについては事務局で取り計らいをよろしくお願いいたします。

続いて、リーダーづくりということで、大運動会が引き合いに出されているいろいろ議論がありますけれども、皆さんいかがですか。はい、山縣さんどうぞ。

○山縣委員

地域体協の山縣です。先ほどの見本市ですけど、本当に素晴らしいことをしていただいて、こどもたちがとても喜んで参加されました。本当これ毎年あるととてもいいことだと思います。ちょうどその時にまつえっこ体操を市長さんとかも前でされたんですけども、こどもたちはとても喜ぶような体操なんですけど、ジャンプしてくるんと回ったり、一緒に行ったお爺ちゃんお婆ちゃんとかには結構ハード動きなので、まつえっこ体操の楽々バージョンというのを、ご年配の方でも楽々にできるような振付も考えていただくと、こどもたちだけでなく連れて行った大人も喜ぶようにしていただくと嬉しいなと思います。ラジオ体操も結構ハードなんですね。椅子に座って上半身だけでも動かせるような感じだと思います。なあと思ったりしています。

私が以前にこれを提案したものですから、いろいろと私も考えていて。そしたらやっぱり指導者なんですよ。指導者をどなたがしていただけるか。あとスポーツの巡回指導でどこに行ったらいいか。私が聞いた中で喜ばれるのは、放課後の児童クラブ。夏休みとかは一日あって大変らしくて、そういうところに回って来ていただくと喜ぶと言われました。

それから今頃はこどもたちはラジオ体操ができないんです。私たちの時は夏休みはラジオ体操を毎朝していましたけど、今はあんまり聞かないですね。こどもたちの運動能力が下がっていると聞きますし、ちゃんとしたラジオ体操とまつえっこ体操がきちんとできるようにするだけでもだいぶ違うんじゃないかと思います。

○松浦会長

分かりました。ありがとうございます。他にはいかがですか。白水さんどうぞ。

○白水委員

政策投資銀行の白水です。ご説明ありがとうございました。金融機関の立場で気づいたところ、3点申し上げたいと思います。

1点目が、資料3の15ページ、スポーツによる「しごとづくり」の①のところ、取組方針をいろいろ加えていただきましてありがとうございます。非常に違和感なく整理いただいていると思っています。全く変えて欲しいとかいう趣旨ではなくて気づいた点ということでコメントをさせていただきますが、ご案内のとおり、インバウンドの取組は今、国の動きもありまして、去年は消費額で8兆円を超えたという記事がちょうど出ておりました。ただやはり3大都市圏に集中していて、できるだけ地方に還元しようという動きがありますので、ぜひこのあたりを意識いただけるとありがたいと思っています。

次に、(2)の松江ならではの自然環境や文化のところは、おそらく朝ドラのばけぼけとかそういった取組についてはすでに別の組織で観光戦略を検討されていると思いますので、下にスポーツコミッションの動きの記載もありますけれども、ぜひ他の委員会とか、他の組織とも連携、共有しながら、活動いただければありがたいというふうに考えております。

もう1点は、先ほど中村様からもコメントありました点ですけれども、ネーミングライツについては、我々金融機関の立場で言えば、ぜひ活用いただきたい。こういった工夫をしていかないと、いつまでも補助金が財源という時代ではないので、ぜひ民間の工夫を使って、ぜひこういう資金を入れていくような検討をしていただきたい。主体となる組織がまたあると思いますので、ぜひそういうところを中心に検討いただけるとありがたいなというふうに考えております。

あわせて湯町様からありました地域人材の視点です。これも全く同意見でして、やはりどれだけ松江に根差した人材を増やしていくかというのが大事な視点だと思います。皆様ご指摘のとおり、間違いなくスポーツは先々戻って来るきっかけになるはずなので、そういう観点で、ぜひそういうコンテンツがあれば継続して、財源の課題があるかもしれませんが、検討いただけるとありがたいと考えております。私からは以上です。

○松浦会長

ありがとうございます。他にはよろしいですか。

リーダーづくりということで今 3 つ目の提案をいただいておりますが、運動会を題材にしてやはり組織が弱まったんじゃないかとか、いろんなご意見あらうと思いますが、何か皆さんの方でお知恵があれば。よろしいですか。はい、岸本さんどうぞ。

○岸本委員

松江市中学校体育連盟の岸本でございます。リーダーづくりという観点と、それからそこにかかれていす中学校の部活動地域移行のことと関連して少しお話をさせていただきます。

今地域移行について協議会を立ち上げて、いろんな方面からご意見をいただきながら進めておりますけれども、なかなか進んでいないのが現状です。その中の一つの大きな視点としては、やはり指導者の確保というところが、中学校の中では課題として捉えているところです。地域の人材でありますとか、地域の中で中学校の部活動と一緒に携わっていただけるような、そういった人材バンクであるとか。もう一つはリーダーとなってやってくださる方は、その地域の取りまとめ、繋いでくださる方、コーディネートしてくださるような方が中学校の地域にいらっしやると、例えば管理職校長がそういう方に相談をしながら、地域をどういうふうにまとめていくのかというようなことも含めて相談できる。調整していただく方が、身近にどなたがいらっしやるか分かることが、ある意味で指導者の確保でありますとか、部活動の運営の円滑な推進に繋がっていくのかなというふうに思っております。そういう意味で、中学校と中体連の活動、それから地域の人材をどう繋いでいくかということにつきましても、ぜひこの人材づくりの一つとしてご検討いただければというふうに思っております。

○松浦会長

ありがとうございました。他にはいかがですか。安部さんどうぞ。リーダーづくりについて。

○安部委員

松江市障害者スポーツ協会の安部です。リーダーづくりという、作る方はやっぱり経験してないとなかなか分からないと思うんですけども。どこにどういった方がいらっしやるかっていうのが分からないのでアクセスしようがないっていうのが、私が感じている最大の問題です。

○松浦会長

分かりました。他にはご意見ございせんか。なければ西村副会長さんからリーダーの件についてご意見をいただきたいと思いますが。

○西村副会長

私も他の地区で部活動の地域移行に関わっているんですが、やはり指導者の確保っていうところが一番の課題だと思っています。その一方で、ご承知のように私は大学に勤めています、スポーツリーダー的なタイプの教員を養成しているわけなので、そういうところに出たいという学生は結構いる。近年は授業が結構びっしり入っていて忙しいのもあるんですけど、そのところを上手く調整してもらえれば、出て行きたい子はいらる。放課後子ども広場のテニス教室とかを手伝っている子もいます。その調整をするコーディネーターの方がいらっしゃるのか。あと同時に、施設についてもどういう場があるのか、というところがうまくまとまれば、意外と掘り起こしすることはできるのかなという感じを持っています。ですから、例えば、島根大学の教育学部の学生とか人間科学部の学生とか、県立大学にも幼児教育のほうで興味ある学生がかなりいますので、そういう学生たちを巻き込みながら、あと社会人でお時間のある方々と一緒になって、行く。そうすることで、島大の学生は結構県外から来ていて、島根はいいなと思ってくれている子がいるので、そういう子たちを定住させていってしまう。県立大は地元の子が多いですから、そのままスポーツ関係の仕事を見つけてやっていくっていうことになると思うと「しごとづくり」にも繋がっていくのかなというふうな感じを持ちながらお話を伺っていました。

具体的取組の中でスポーツ推進委員の委嘱といったところが継続とありましたけれども、それ以外には地域とか、大学とか。うちの卒業生で安来高校のバレー部の教員がいてこの間話を聞いたんですけど、彼は地域のバレーボールクラブを作って、クラブでは高校生が指導をして小中学生が楽しそうに来てくれている。その子たちが将来進学して安来高校に入ってくる。そこからさらに、そういう子たちが島根に根づいて、指導にも携わったり仕事も島根でしていくという形にうまくなっていけばいいかな。そういうふうに学校の部活で活動している子たちとか、スポーツ指導に興味がある子たちなんかも一緒に巻き込んでいくと、新たな指導者養成、場合によっては「しごとづくり」にも繋がっていくのかなというような感想を持ちましたので、そういったような新たな取組をちょっと一言盛り込んでいただくと面白いのかなというふうに思いました。私からは以上です。

○松浦会長

ありがとうございます。大変具体的な踏み込んだ話でございしますが、今、西村さんお話をいただいたことについては、いかがですか。コーディネーター等についてまたいろいろ議論をする中で、お願いをさせていただくということで、加えさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員一同、異議なし)

○松浦会長

それではそのような形をとらせていただきます。それで先ほど 3 つ提案をいただいた話題については一通り区切りがついたと思っています。その他どこでも構いませんので、どうぞ。何かございませんか。中村さんどうぞ。

○中村委員

ちょっとまた話が戻ってしまうかもしれませんが、先ほどの岸本先生がおっしゃられたことに関して、以前の会議のときに申し上げたかもしれませんが、5 年ぐらい前に、島根県の保健体育課の依頼もあって、文科省の事業で地域を活用した学校丸ごと子供の体力向上推進事業というのを、当社が一般社団法人を立ち上げましてそちらで受託しました。学校における授業の質を上げるということが目的でなんですけれども、主にあったのが水泳の指導でございまして、指導員を外部から連れてくるということになったときに、登録をしているのが島根県で 2 人しかいらっしやなくて、浜田から水泳の指導員を派遣してくださいっていうふうなことで言われたときに、結局、松江から行ってもらったりしました。いわゆるスポーツ指導者の人材、そういうポータルサイト的なものを作ってくれということに対してやったことで、確か 2 年間やりましたけれども、なかなか登録していただく方の数も少なくて難航したっていうのが実情でありました。そういった中で先ほどのパブリックコメントを見てみると、ゴールデンエイジの話もそうですし、中学校の部活動の地域移行の話もそうかもしれませんが、やはり指導者の待遇改善と、その先にある資質向上とか指導技術の向上というふうなこともなければ、この島根県からどんどん離れていってしまうということなんかも書いてありましたんで、やっぱり指導者の登録制度、ポータルサイトとかそういうのを作る中で、研鑽して行って、トレセンだったりナショナルトレセンだったり、いろんなところに定期的に指導者を派遣して行って、技術を高めて、それをまた島根県や松江市に持って帰ってフィードバックして周りに伝えていくみたいな、そういった流れがあるといいと思うんですけど、ただ、やりなさい、頑張りなさいって言うてもなかなか難しいと思うので、その辺のところがシステムチックになっていくといいんじゃないかなというふうに思いました。

○松浦会長

分かりました。確かに今おっしゃることは一理あると思うんですけども、種目によっては、それぞれの形でライセンスを与えたり講習を受けた者が指導をするということをすでにやっている協会もあるわけでございまして、これは協会によっていろいろ取組が違うと思いますけれども、そういうことをやっていけばだんだん良くなっていくという話ですが、今日せつかくの機会でございますが、皆さん指導者の問題で何かお話をされることがありませんか。

なければ私からですが、クレーマーという失礼なんですけど、今頃はご意見をおっしゃる方がいまして、その方々と指導者が衝突している。そういうような事例が県内でも見受けら

れます。そのようなことを防ぐにはどうしたらいいのか。やっぱりきちんとライセンスを持った方が指導する。ライセンスを持った人を養成していく。それもやっぱり大事なることかなと思っています。

それから今日は予算の話が出ましたが、実は手前みその話で申し訳ないんですが、この間、日本サッカー協会の取組でディズニーさんがスポンサーになって、小学校3年生以下の女の子たちが親子連れで松江市総合体育館に集まりました。元日本代表の澤さんと坂口さんも来ましたが、チラシを配ったり今まで教室を開いた保育所なんかに行ってお願いをしたりして、親子で200組集まりました。皆さん喜んで大騒ぎして帰られました。もちろん裏付けがあって、親子にTシャツが1枚ずつ配られるとか、ボールが1組に1個渡されるとか、そういうようなこともあってのことではありますけれども、やっぱり松江市の総合体育館、きちんとした施設があって、天候に左右されずにできるという評価をいただいていることだと思っています。今、スサノオマジックさんは学校にボールを何個寄贈とおっしゃっているようでございまして、そういうようなこともやっぱり余裕のあるところは広げていく、そのことがスポーツに対する取組になるんじゃないかなと思っています。

すみません。私ばかりしゃべって。あと15分ぐらいでまとめさせていただきたいですが、皆さんいかがでございしますか。

なければ最後に副会長にまとめていただきたいと思います。西村先生どうぞ。

○西村副会長

いいですか。一つは、パブコメの中にもあった施設の件なんですけど、施設の整備と利活用のところでも環境整備という話がありましたし、部活動の地域移行のところでも、学校施設の有効利用を、土日は部活をやめたとしても学校の施設で、部活の代わりに地域クラブをやるというのは当然出てくることになると思うので、そこの施設の有効活用っていうところが、公営のスポーツ施設以外ですごくキーになってくると思うんです。実際に一般の方のサークル活動とかでも体育館を活用されていると思いますので、例えば他の自治体ではICTのソフトウェアを使って有効活用をやっているところもあったと思いますので、そういった既存のプログラムを外注するとか。松江だったら新たにRubyを使って作るということで「しごとづくり」にも繋げるとか。また施設の有効活用と同時に、この時間に空いている人みたいな感じで指導者の人材の派遣っていうところとうまく繋がっていくと、施設と人の有効活用みたいな形になっていくと思うんですけれども、そのような具体的な取組みみたいなものを簡単にコメントで入れたらどうかなと思うんですが。皆さんの方からそういった点でお気づきの点といいますか、何か情報がありましたら、教えていただけたらと思うんですが。

○松浦会長

あればどうぞ。

○西村副会長

例えば、部活動の地域移行に備えて施設管理アプリみたいなものも出ているようなので、そういうのを使うとか、またはそれぞれの団体さんでこんなアプリを使っていますよとか。松江市はスポーツ施設の空き状況がホームページに出ていますけど。

○事務局（佐々木課長）

情報が施設ごとになっていて、それぞれの施設のページを見ないと分からないというところはやっぱり手間が掛かっていて、できるだけ一元化していこうと思っております。

○西村副会長

そこに、可能な範囲で構わないですけど、学校に迷惑が掛からない範囲で、空いているとぱっと使えるみたいなのがあったりすると。

○松浦会長

今、学校施設の話が出ましたが、以前は、例えば小学校の体育館は月に1回とか、ある曜日だけは地域に開放しますとかやっていましたが、今はないんですか。

○事務局（佐々木課長）

正確には教育委員会に確認しないと分からないところもあります。

○岸本委員

よろしいですか。

○松浦会長

どうぞ。

○岸本委員

各中学校単位で学校施設開放委員会っていうのが立ち上がっています。公民館と連携をして、大体2月ぐらいに、来年度の施設利用の希望を、地域のクラブチームとか、社会体育団体の皆さんにご案内をさせていただいて、それぞれの施設の夜間使用について希望を募って調整をしています。あとは月ごとに、曜日と活動時間を決めていただいて、空いているときには、小学校とかそういったところにも貸出をしているという状況です。

○松浦会長

分かりました。ありがとうございました。先生にいていただいてすぐ解決しました。そう

いう状況のようでございますので、ご承知おきください。

さて、いよいよ時間が迫って参りましたがいかがですか。はいどうぞ、安部さん。

○安部委員

すいません、障害者スポーツ協会の安部です。ちょっと取り留めもなくなるかもしれませんが数点。

これまで松江市障がい者スポーツ大会っていう形でずっと運営して参りましたが、先生から前回のときにお話いただいて、いわゆる交流会とか或いは体験会という名前にしてはどうかと。確かにそうだなと。といいますのが、障がい者大会とすると障がい者しか来られないみたいなイメージが強いんじゃないかなということから、来年度からそういう名前を使おうかなと思っております。要は、障がい者だけでなく一般の方、こどもさんだったり或いは年配の方だったりとか、そういう方にも一緒にやっていただけたらなという思いがずっとありまして、そういう名前にしたいと思っています。実施計画に「障がい者スポーツ大会」とあるんですけども、ここは名称を変えて運用するかもしれません。

それから先ほどこちと言いましたけども、情報をもう少しまとめるところがないのかなと。先ほど指導者についてありましたけども、どこでどういうことをやっているよということを、市内に限らず、周辺の自治体も合わせた形で、こういうイベントがあるよとか。今すぐにはできないと思いますが。1時間くらいの移動ならすぐ動けますし、広域な範囲でやったら、私自身も行くんですけども、指導者も集めやすいし、いいなという風に思いました。

指導者の話でついでに言いますと、公の資格、国とかが作っている資格っていうのは、これを取るの結構大変です。私個人で言いますと、ボッチャの資格があるんですけど国際大会も無理なんですけど国内大会はできるような審判員の資格を取りました。底辺を広げるために、指導者の資格を持った人を増やすのに、もしで可能ならば、島根県版の言ってみれば簡易な資格を作るといえるのはどうかと。そうするとやはり指導者側のモチベーションも上がるんじゃないかなというふうに思っています。

あともう1点。先日あったんですけども、足の弱い方がリハビリをしたいんだけど対応してくれる施設がないと。歩きたいけど施設の中で廊下を歩いちゃ駄目とかいうのがあって。そこら辺に対応できるような人なり施設なり、何か費用が掛かったとしても、そういった情報なんかもう少し欲しいなと思っています。

○松浦会長

はい。ありがとうございます。今の件については、また個別に安部さんのご意見をさらにお伺いして、なるものはなるし、ならないものはならないということでお返しする。課長さん、部長さんよろしいですか。

○事務局（桑原部長）

はい。

○松浦会長

安部さん、そういうことでお願いさせていただきます。

他にこれだけは言っておきたいということがあれば。よろしいですか。

（発言する者なし）

○松浦会長

ないようでございますので、最後に西村副会長さんにまとめをいただこうと思います。よろしくをお願いします。

○西村副会長

まとめる前にちょっと一つだけ今まで話題になってきたことと結構関連してくると思うのが、今後の取組に挙げられているスポーツコミッション事業。成果指標も含めて、スポーツコミッション事業ということで具体的な取組というふうなのが書かれているんですけども、これについてもうちちょっと分かりやすくというか、課長の方から説明いただいてもいいですか。

○松浦会長

課長どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

はい。スポーツコミッションの今後の見通しを簡単に説明させていただきますと、今年3月にスポーツコミッションを設立させていただく予定としております。コミッションの設立準備委員会で方向性を定めさせていただいたところです。

スポーツコミッションの役割としてプラットフォームの機能を持つということで、いろんなスポーツに関わる団体、或いは旅館やお土産物屋さんとかの事業者ですとか地域の体育協会、皆さん方の団体とかそういったものを結びつけて、流れを作っていくっていうようなものを考えているところです。具体的に1個だけ言わせていただくと、交流ミーティングっていうのを考えていまして、例えばスポーツ団体の皆さんがこんな大会したいけどどうやったらいいかなっていうものが分からなかったり、或いはイベント会社の皆さんが自分たちこんなアイディアを持っているんだけど何か使えないかなと思ったり、或いは地域の皆さん方が何かお手伝いしたいとけど何かできる場所ないかなとか、地域で運動会をしたいけどもっと盛り上がる方法ないかなとか。あと土産物屋さんとかだったら、何か大会が来

たときにいろんな物をもっと販売したい、地元の特産品を知ってもらいたいと思うような方、そういった皆さんを一堂に集めて、いろんな事例発表してもらったり意見交換をしたりしてもらう中で、繋がりを作っていただいて、そういった中で出会いをきっかけに何か事業を進めていく。そういうものができればなというふうに思っているところです。

そういったような組織を今年の 3 月に設立して、来年度以降で動かしていくというところを考えているところです。

○西村副会長

ありがとうございます。これでいうと推進計画でいうと 5 ページと 15 ページにあります。資料 4 の実施計画ではどこに書いてありますか。

○事務局（佐々木課長）

実施計画では 2 ページの「しごとづくり」の中の継続して取り組むものに「スポーツコミッション実証実験」を入れておりますが、これと右端の今後新たにに取り組むもののところにも、「スポーツと観光の連携の推進」「プロスポーツチームとの連携の推進」「スポーツ関連ビジネスの活性化」の項目にそれぞれ、具体的なものは書いておりませんが「スポーツコミッション事業」ということで入れさせていただいているということです。

○西村副会長

この間少しお話も聞いたのですが、今のお話を聞いていて、まさにこれだよなあと思いました。まだ実際に動き出してないので図が書きにくいのかもしれないんですけども、こういうのが動き出す予定ですともうちょっと書き込んでもいいのかなと。特に「しごとづくり」のところは推進できるはずだという形に見える化があってもいい気もしました。

○事務局（佐々木課長）

分かりました。書ける範囲で少しは書きたいと思います。

○松浦会長

ありがとうございました。大体これで意見を皆さんからまとめさせていただきましたが、本日の会議の中で、この案を大幅に変更してやらなきゃいけないというようなことはなかったように思っておるところでございます。微調整につきましては、その都度、皆さんにご理解をいただいたものと思っています。今後 3 月上旬に、松江市長さんに対して、私と西村副会長で答申をすることになっております。その間、文言の整理とか、今日いただいた意見の微調整等についてはあるかと思っていますが、このことにつきましては、この 2 人と事務局にお任せをいただいて答申をさせていただきたいと思いますが、いかがでございますか、ご理解いただけますか。

(委員一同、拍手)

○松浦会長

大変ありがとうございました。皆様のご意見をいただく中でいい形でまとめさせていただきまし、皆様のご意見も大変盛りだくさんのものをいただきましたが、微調整という範囲だと思っておるところでございます。これから先、このスポーツ推進審議会が作動しまして、さらに市民のスポーツ向上に努める役割が果たせればと思っておるところでございます。本日はご協力いただきましてありがとうございました。これで私の案内役を終わりにしてお返しします。ありがとうございました。

4 事務連絡

○事務局（山尾係長）

松浦会長には円滑な議事進行をいただき、ありがとうございました。

今後のスケジュールでございますけれども、推進計画については教育委員会会議の意見を聞きながら答申をまとめさせていただいて、3月の下旬に市長に提出していただく予定としております。その後、内部決裁を行いまして、第3期松江市スポーツ推進計画として、今年度末のところで策定したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

5 閉会

○事務局（山尾係長）

それでは、閉会にあたり、文化スポーツ部長の桑原よりごあいさつを申し上げます。

○事務局（桑原部長）

本日はお忙しいところ、またお足下の悪い中ありがとうございました。今年度、3回の審議会を開催させていただく中で、非常に素晴らしいスポーツ推進計画の形ができたと思っておるところでございます。3月には市長に答申いただくということで、策定した第3期スポーツ推進計画については、来年度以降も、進捗状況を報告させていただき皆様からご意見を頂きながらどんどん良いものにしていきたいと思っておるところでございます。引き続きご指導ご協力いただきますことをお願い申し上げまして、御礼のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局（山尾係長）

以上をもちまして令和6年度第3回松江市スポーツ推進審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

〔15 時 02 分 閉会〕